

基礎研究医養成活性化プログラム  
取組の概要と推進委員会からのコメント

		整理番号	2
申請担当大学 (連携大学)	千葉大学(計3大学) (群馬大学、山梨大学)		
プログラム名	病理・法医学教育イノベーションハブの構築		
事業推進責任者	池原 譲(千葉大学大学院医学研究院 腫瘍病理学 教授)		
取組の概要			
<p>本提案のねらいは、千葉・群馬・山梨の三大学連携で病理・法医学研究医育成の教育プラットフォームを整備すること、そして千葉大学の未来医療教育研究機構をモデルに病理・法医学の領域に大学院教育のハブを構築することによって、同領域の医師不足解消を目指すことにある。事業の目標は、プログラム修了者の進路に多様性をもたらす、病理・法医学教育イノベーションハブの構築である。このため、各診療科のニーズに応える病理医育成を効率化することを目的に各大学が連携し、研究医の育成に必要な人的・物的リソースの共有を行い、大学とその関連病院、各部局を越えた On-the-Job training の運営を実現する。事業で提案する病理・法医学研究医育成のプログラム・コースは、①病理・法医学を志す医師の育成強化と②市中病院で専門医を取得して診療に従事している病理医を対象とした社会人大学院の拡充を狙うほか、③臨床各科の専門医及び基礎医学への進路を希望する医師を対象に、キャリアパスに選択の幅を持つ機会を提供する教育プラットフォームとする。</p>			
推進委員会からのコメント      ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○病理医・法医の育成に加えて、診療技術の標準化制度維持、臨床に必要な病理診断技術の習得など育成すべき人材像が明確化されている。</p> <p>○病理学、法医学への進路を初期研修修了後のみならず臨床各科、基礎医学など多様な背景から可能とするモデルが示されており、評価できる。</p> <p>○市中病院勤務後の種々のスキルの取得等、卒後教育の観点も取り入れている事は多くの病理医の再教育の観点から効果が期待できる。</p> <p>○キャリアパスの構築(特任助教のポストを準備)に力を入れているほか、取組の継続性に関する構想が明確に示されている。</p> <p>●地理的にも離れている3つの大学の事業推進に係る連携体制が不明確である。</p> <p>●社会人大学院のコースは現実性が高いが、この形では市中病院の勤務医(病理医)が育成されることになり、基礎研究医の養成にはつながりにくい点が懸念されることから、この点について工夫が求められる。</p> <p>●病理専門医取得へのサポートと地域医療への貢献の観点が不明確である。</p>			